

現代の食生活と食器との関わりについて(第1報)

岐阜大教育の長野宏子 馬路泰蔵 渡辺光雄

目的 食生活が多様化した現在において食生活を食材、栄養および行動等の観点から調査した事例は多いが、我々が毎日使用する食器の面からの報告は少ない。料理の最終段階である盛り付け食器には流通・加工など社会的レベルから家族レベル、個人レベルまでの、つまり食べる段階に至るまでの意思決定、料理段階が凝縮されている。従って食事時における食卓上の食器と食事内容、食卓周辺の状況を探ることで広義の食生活の実態、さらに食生活の豊かさを追及することを目的とする。

方法 岐阜大学および秋田大学の教育系の学生各々 165名、60名を対象として調査を行った。講義のある月曜日から金曜日までの一日を選び、一日の食生活の状況を解答選択と絵によって記入させた。絵には料理、その材料ならびに食器に留意して記入するように指示した。食生活全般が把握できるようカテゴリー化し集計を行った。

結果 1. 朝・昼・夕食の基本三食の食器数は、夕食 5.7個、朝食 4.5個、昼食 3.3個であり、喫食場所、同席者・数が影響している。2. 家族との食事時に用いられる共通盛り食器は一日一人当たり 2.4個使用しており一日に使用する食器の15.5%にあたる。朝食と夕食で 1.1個から 2.7個使用されており、なかでも家族と同席している場合には、使用食器中にしめる割合が高く31%~35%使用されている。3. 使い捨て食器の形態は、袋物、筒状のものが多く、その使用は昼食において主食のパンで多く使用され全食器中20.5%使用されている。